

# ウェルウォーク通信

## ～WW活用件数向上の取り組み～

日頃はウェルウォークをご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。  
今回は、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター様の「活用件数向上を目的とした取り組み」をご紹介します。

### 富山県リハビリテーション病院 ・こども支援センター



#### 【基本情報】

所在地：富山県富山市

病床数：232床

（回復期リハビリテーション病棟100床、一般病棟50床、  
こども棟52床、療養介護棟30床）

療法士：104名（PT46名、OT38名、ST20名）

脳血管疾患患者：約7割

#### 【施設の特色】

北陸で初めてウェルウォークを導入し、臨床、研究活動に取り組んで参りました。回復期病棟の患者さんを中心に活用しています。

## 1. 当院の現状と課題

当院では練習を行う対象を、重症患者から軽症患者まで幅広く捉え、脳血管疾患に限定せず活用しています。その中で、ウェルウォーク導入から8年目を迎え、長年継続活用をする中で、効果の期待が薄い患者や他のプログラムを優先した方が良い時期などの見解について、ウェルウォーク班や理学療法科の中で少しずつ共有されてきました。近年では、重症患者の受け入れ増加やコロナ禍の影響もあり、**導入当初(WW活用件数：1.5人/日)と比較し活用件数が伸び悩み、あわせて活用できるウェルウォークスタッフの増員に苦戦しております。**

## 2. 現状の活用実績の把握

【オンライン相談会】を活用し、**月毎のWW活用実績データを確認しながら課題に対する意見出し**を行いました。その上で、優先して行う活動戦略（3-1,-2）を立案しました。

### 3-1. WW活用可能なスタッフの増員活動

ウェルウォークを活用できるスタッフの増員を目的として、**オンラインにて運動学習講座を院内向けに実施**していただきました。スタッフにウェルウォークの機能を知ってもらい、活用方法や効果を学んだことでウェルウォーク班員が**他のメンバーにウェルウォークの活用を提案しやすくなった**と感じています。さらに、当院独自の取り組みとして、**事前学習を簡略化し、その分説明者との実技練習を増やす**ことで、ウェルウォークを活用するハードルを下げ、スタッフの増員を図っています。



↑ 理学療法科のスタッフが集まり運動学習講座を聴講

運動学習講座実施内容 講座時間：1時間

参加者：総勢30名（Dr、PT）

1. 運動学習理論
2. ウェルウォークとの関連性
3. ウェルウォークでの活用症例紹介
4. 質疑応答

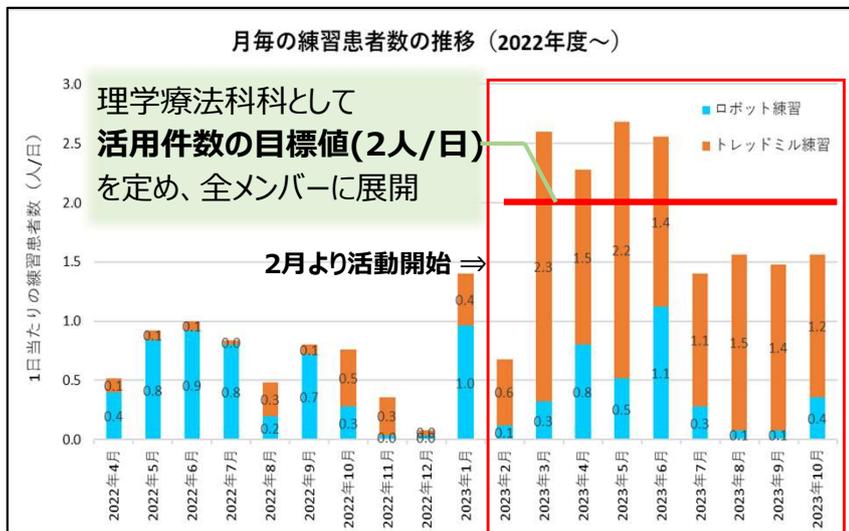
# ウェルウォーク通信

～WW活用件数向上の取り組み～

## 3-2. トレッドミル練習の活用促進

活用実績の低い軽症患者への適用として、トレッドミル練習の積極的な活用に着目し、トレッドミル練習の活用方法に関する講座も実施していただきました。講座実施後、トレッドミル練習の活用件数が増加し、特に、ウェルウォーク職員以外のスタッフの利用が増加した印象がありました。

## 4. 活動の効果



↑ 2022年4月からの活用実績データ

## 5. WWの活用事例：更衣練習

最後に、ウェルウォークを使用した少し変わった活用方法についてご紹介します。こちらは立位での下衣操作練習の練習を行っている光景です（右図）。上肢のしびれがあり視覚に入らない背面での上肢操作に問題のあった患者に対し、カメラを後方にセッティングし、前方のモニターのON/OFFを切り替えながら、視覚情報と体性感覚情報の統合を図った一例です。即時的にトイレ動作の上達が見られ、排泄自立につながりました。

今後もウェルウォークの様々は活用方法を模索し、幅広い患者さんに活用していきたいと思っております。



↑ 更衣練習の模擬を行っている様子

## <参考情報>オンライン相談会

こんな時にご利用ください！



今回ご紹介させていただいた“富山県リハビリテーション病院・子ども支援センター様”にも活用していただいたオンライン相談会は、施設様の要望に合わせてできる限りの支援をさせていただきます。

どのようなことでも構いませんので、ご相談・ご質問がございましたら、お気軽に下記連絡先までご連絡ください。

WW 臨床・運用相談窓口  
[clinical-ww@mail.toyota.co.jp](mailto:clinical-ww@mail.toyota.co.jp)